

社団法人山梨科学アカデミー特別講演

演 題 「鳥、ブタ、そしてパンデミックインフルエンザ

ウイルスの生態を知り、対策に活かす 」

講 師 北海道大学 大学院獣医学研究科 教授

同大学 人獣共通感染症リサーチセンター センター長

日本学士院会員

きだ ひろし
喜田 宏 氏

講師紹介

略 歴

昭和 42 年北海道大学獣医学部卒業、44 年同大学大学院修士課程修了。同年武田薬品工業株式会社技術研究職、51 年 北海道大学獣医学部講師、53 年 同助教授、WHO インフルエンザウイルス共同研究センター客員教授などを経て、平成 6 年より現職。平成 13 年から 17 年まで獣医学研究科長・獣医学部長。平成 17 年より新設の北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター長を兼務。インフルエンザウイルスの生態に関する研究などに対し、北海道科学技術賞、日本農学賞・読売農学賞、日本学士院賞、畜産大賞ほか受賞。日本学士院会員。

国内にあっては、食糧・農業・農村審議会家禽疾病小委員会委員長、厚生科学審議会感染症分科会委員などとして、感染症対策の立案と実施に関与し、国際的には、WHO、FAO と OIE のインフルエンザネットワーク拠点とレファレンス研究所の責任者として活動。

学 位 獣医学博士

専門分野 微生物学（ウイルス学、細菌学、疫学、ワクチン学、予防学）

講演概要

H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルス（HPAIV）感染が、ユーラシアとアフリカの 62 カ国の家禽と野鳥に広がっています。内 15 カ国では、440 余名のヒトが感染し、6 割が死亡しました。「家禽の感染を早期に摘発、淘汰することにより、被害を最小限に食い止めるとともにヒトの健康と食の安全を守る。HPAIV を鳥に封じ込める。」これが鳥インフルエンザ対策の基本です。

本年 4 月末に、メキシコで、ブタ由来 H1N1 ウイルスがヒトに伝播し、米国にその感染が拡大していることがわかりました。今や、150 カ国 30 万人以上にこのウイルスの感染が確認されており、日本では、2 万人以上に感染が拡大しています。その対策は一貫していません。

“鳥インフルエンザ”も”ブタインフルエンザ”も、“新型インフルエンザ”も、ヒトの病名ではありません。すべて「インフルエンザ」です。日本だけで毎年数千名を死亡させ、数百名の小児に脳症を起こしている、季節性インフルエンザの克服こそが、新型ウイルス対策の基盤です。